

経営比較分析表（令和4年度決算）

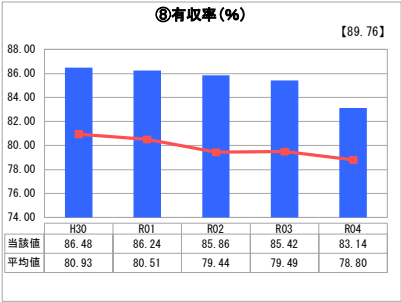
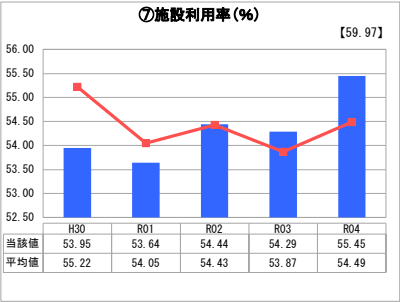
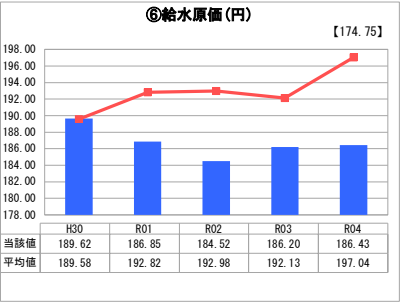
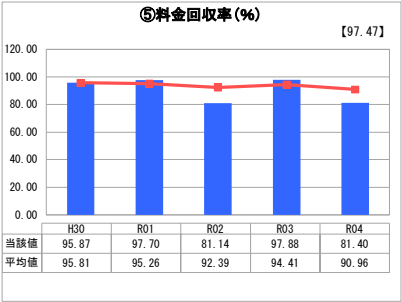
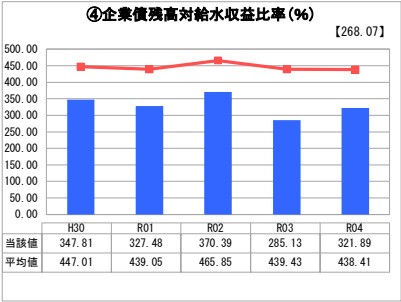
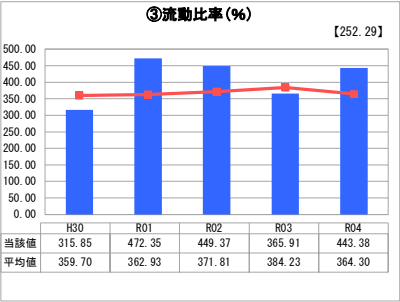
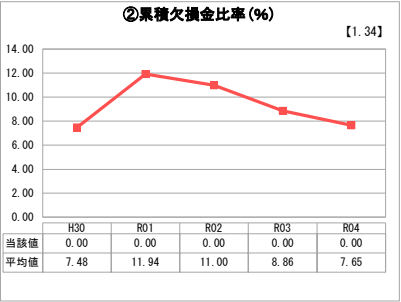
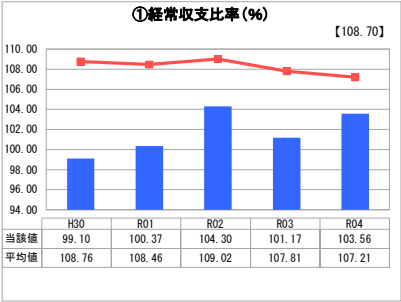
福岡県 鞍手町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	66.42	89.12	3,018	

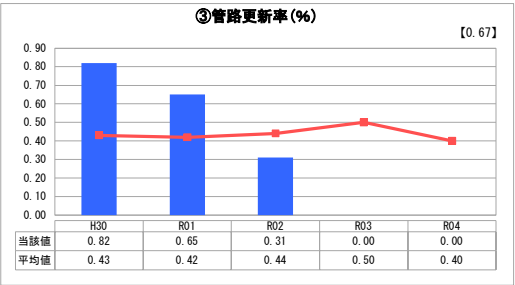
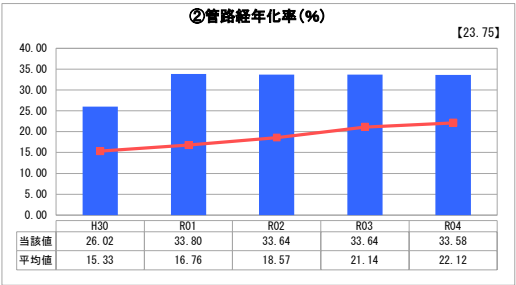
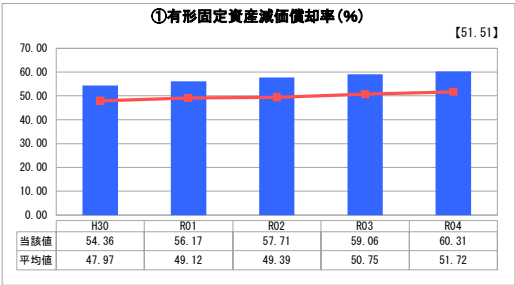
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,172	35.60	426.18
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
13,457	34.95	385.04

グラフ凡例
■ 当該団体の値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
類似団体平均を下回っているが、昨年度に比べて2.39ポイント増加した。増加した主な要因としては、新型コロナウイルス緊急経済対策としての一般会計からの補助金の増加によるものである。

②累積欠損金比率
未処分利益剰余金により相殺されているため発生していないが、引き続き発生しないように努める必要がある。

③流動比率
地方債償還額のピークがR4年度までの見込みのため、今後は改善していく見通しである。

④企業債残高対給水収益比率
R4年度に水道施設台帳整備の為、新規の借入をした。基本料金を減免したため、昨年度に比べて上昇した。

⑤料金回収率
新型コロナウイルス緊急経済対策として基本料金を減免したことにより減少している。

⑥給水原価
昨年度と比較して大きく増減はないが、引き続き経費等の見直しが必要である。

⑦施設利用率
町内レジャー施設が井戸水併用から上水道単独使用になり、使用量が増えたことにより、増加している。

⑧有収率
類似団体平均は上回っているが、100%に近づけるためには、改善が必要である。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
管路以外の機械等の中には耐用年数を超えて稼働しているものがあるため、償却率が類似団体平均より高くなっている。

②管路経年化率
開設時に布設した配水管に小口径のビニール管が多く存在しているため、類似団体平均に比べて高くなっている。

③管路更新率
昨年度は、下水道工事に関連する布設替を実施しており耐用年数を超えていない管であったため更新率が皆減した。引き続き計画的な更新が必要である。また、浄水場等の施設整備も併せて計画的に更新していくかが課題である。

全体総括

昨年、一昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により、各項目で悪化している。今後とも社会情勢に注視していく必要がある。施設の老朽化が進行していくため、更新にかかる費用と経営状況を把握しながら、健全性や効率性を維持し、計画的に施設更新を進めていく必要がある。